

岩手県感染症週報

令和6年第27週 (7月1日～7月7日)

岩手県感染症情報センター

第27週の概要

1 類感染症

- 患者発生は報告はありませんでした。

2 類感染症

- 結核の報告が7例ありました。そのうち2例は潜在性結核感染症でした。

3 類感染症

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が15例ありました。

4 類感染症

- レジオネラ症の報告が2例ありました。

5 類感染症 (全数把握対象疾患)

- クロイツフェルト・ヤコブ病の報告が1例ありました。

5 類感染症 (定点把握対象疾患)

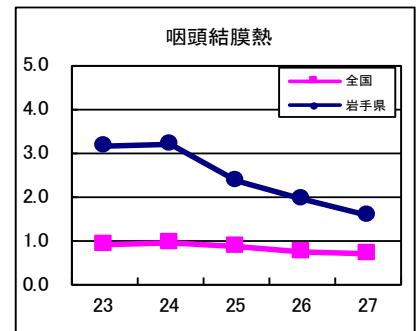
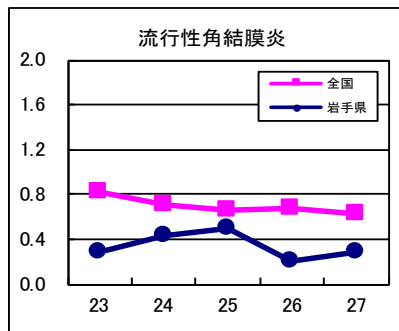
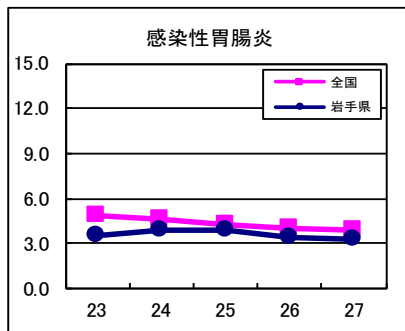
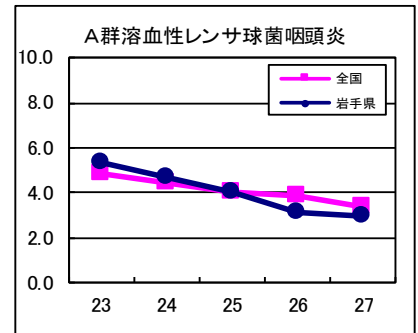
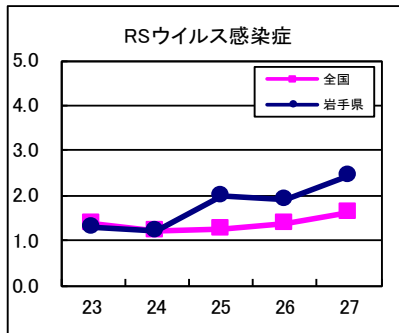
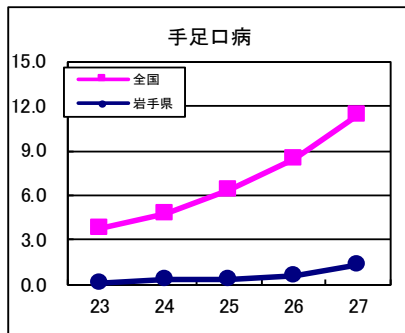
- 手足口病の定点あたり患者数は1.28人となり、前週に比べ2倍以上に増加しています。乳幼児を中心に夏季に流行するウイルス性感染症です。主な症状は、手足や口内に現れる小さな水疱性発疹で、発熱がみられることもあります。特に口内の発疹は、痛みが伴うと十分な飲食ができず、脱水症状がみられることがあるので注意が必要です。原因となるウイルスは複数あるため、再発することもあります。また、稀に髄膜炎等を併発することがあり、高熱や嘔吐等がある場合には速やかに受診しましょう。予防には、手洗いやうがいのほか、患者との濃厚接触やタオルの共用を避けることが重要です。
- RSウイルス感染症は増加し、定点あたり患者数は2.43人となりました。県央地区で報告が多くなっています。例年、秋から冬に多い傾向がありましたが、近年は夏に増加しています。本症は発熱、鼻汁、咳といった風邪の症状がみられますが、乳幼児や高齢者等で重症化することがあり注意が必要です。予防には手洗い、咳エチケットが重要です。
- 新型コロナウイルス感染症は増加し、定点あたり患者数は5.60人となりました。県内のクラスターの発生は、学校1件でした。引き続き手洗い、咳エチケット等基本的な感染予防対策の確認をお願いします。

「岩手県・新型コロナ対策
パーソナルサポート
(@iwatevscovid19)
ID検索またはQRコードか
ら友達追加



最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが異なることに注意)



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

報告週対応表 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2023年第19週より新型コロナウイルス感染症が定点把握対象疾患となりました。

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症（定点把握疾患）から5類感染症（全数把握疾患）へ変更されました。

※2013年第42週より感染性胃腸炎（ロタウイルス）が定点把握対象疾患となりました。（定点あたり患者数）

疾病名	地域	週					流行傾向
		23	24	25	26	27	
インフルエンザ	岩手県	0.05	0.03	0.08	0.05	0.03	→
	全国	0.17	0.15	0.16	0.20	0.28	
RSウイルス感染症	岩手県	1.30	1.20	1.98	1.90	2.43	↗ ☆
	全国	1.37	1.22	1.27	1.36	1.61	
咽頭結膜熱	岩手県	3.15	3.18	2.35	1.95	1.58	↘ ☆☆☆
	全国	0.89	0.92	0.86	0.74	0.67	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	5.33	4.70	4.00	3.15	2.95	↘ ☆
	全国	4.87	4.46	4.05	3.83	3.41	
感染性胃腸炎	岩手県	3.53	3.90	3.93	3.40	3.35	→ ☆
	全国	4.86	4.70	4.25	4.09	3.95	
水痘	岩手県	0.23	0.03	0.18	0.15	0.18	→ ☆
	全国	0.21	0.25	0.22	0.22	0.23	
手足口病	岩手県	0.05	0.33	0.35	0.55	1.28	↗ ☆
	全国	3.83	4.73	6.31	8.45	11.46	
伝染性紅斑	岩手県	0.25	0.45	0.30	0.20	0.23	→ ☆
	全国	0.09	0.09	0.08	0.10	0.10	
突発性発疹	岩手県	0.23	0.48	0.58	0.38	0.48	→ ☆
	全国	0.34	0.32	0.34	0.33	0.30	
ヘルパンギーナ	岩手県	0.05	0.05	0.05	0.13	0.15	→ ☆
	全国	0.64	0.79	1.07	1.58	2.15	
流行性耳下腺炎	岩手県	0.08	0.08	0.05	0.05	0.13	→ ☆
	全国	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.04	0.05	0.05	0.03	0.03	
流行性角結膜炎	岩手県	0.29	0.43	0.50	0.21	0.29	→ ☆
	全国	0.82	0.70	0.66	0.67	0.63	
新型コロナウイルス感染症	岩手県	3.35	3.05	3.49	4.57	5.60	↗ ☆
	全国	3.99	4.16	4.61	5.79	8.07	
細菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.05	0.00	→
	全国	0.02	0.01	0.02	0.04	0.02	
無菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.04	0.03	0.04	0.05	0.02	
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.11	0.05	0.26	0.21	0.26	→ ☆
	全国	0.25	0.32	0.40	0.39	0.49	
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.00	0.00	0.00	-	-	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	岩手県	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.03	0.05	0.02	0.02	0.01	
インフルエンザ（入院患者） ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	0	1	1	
	全国	-	-	-	-	-	

【流行傾向の見方】

- 無印：ほとんど患者が発生していません
- ☆：患者が発生しています
- ☆☆：警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆：多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)	岩手県					全国	
		23	24	25	26	27	累計	27	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	1 (1)	0 (0)	2 (1)	2 (0)	7 (2)	66 (28)	233	7860
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	2
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	1	24
	腸管出血性大腸菌感染症	2	0	2	10	15	38	129	1129
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1	21
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	4
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	1	8	283
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	2	85
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	6
	エムボックス	0	0	0	0	0	0	0	14
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	2	2
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	2	7
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	6
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	3	81
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	1	2
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	つつが虫病	0	0	0	0	0	3	1	100
	デング熱	0	0	0	0	0	0	6	102
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	10	176
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	1	3
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	
マラリア	0	0	0	0	0	0	2	20	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	2	13	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	0	1	2	9	61	976	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	3	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		23	24	25	26	27		27	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	2	8	272
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	1	4	111
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	1	0	0	0	6	33	994
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	0	18
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	1	0	1	5	287
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	13
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	1	1	4	86
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	7	33	1185
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	1	0	3	13	521
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	19
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	2	5	359
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	5	34
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	4	33	1495
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	4	6	245
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	1	0	1	0	29	210	7101
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	1	4	115
	破傷風	0	0	0	0	0	1	1	40
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	1	1	68
	百日咳	0	0	0	1	0	6	62	611
	風しん	0	0	0	0	0	0	1	4
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	24
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	3

今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と劇症型溶血性レンサ球菌感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌を原因とする5類感染症定点把握対象疾患です。毎年冬から春にかけて患者が増加する傾向があります。飛沫感染や接触感染により伝播し、症状は、発熱、咽頭痛、全身倦怠感のほか、傷口からの感染によるとみられる蜂窩織炎や壊死性筋膜炎、菌血症等を引き起こすこともあります。稀に引き起こされる劇症型溶血性レンサ球菌感染症は重症例であり、A群溶血性レンサ球菌のほかB群、C群、G群の溶血性レンサ球菌も原因となります。5類感染症全数把握対象疾患に分類されており、敗血症性ショック症状のほか、肝不全、腎不全、呼吸不全の一種である急性呼吸窮迫症候群、播種性血管内凝固症候群、軟部組織炎等への劇的な症状の進行を特徴とし、死亡することがあります。

全国のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、2023年10月以降増加し、過去10年間の同時期と比べ高いレベルで推移しています(図1)。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の2024年の届出報告数は、1999年に統計を取り始めて以降最多となり、高齢者を中心に例年より多くなっています。

一方、県内のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、今年の5月以降増加し、過去5年間の同時期と比べ最も多くなっています(図2)。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出報告数は、今週までに7人となり過去5年間と比較し多い状況です。今週の県内保健所管内ごとのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者数は図3のとおりです。

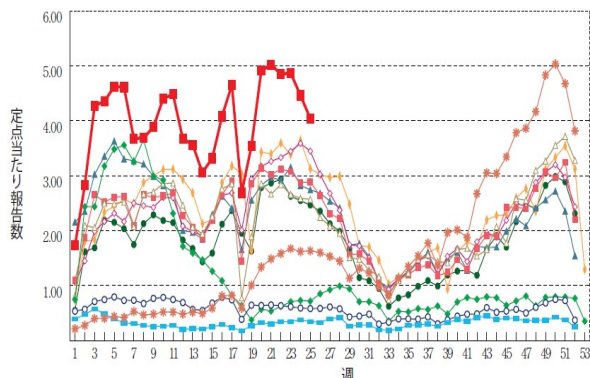


図1 全国のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況 (2014年～2024年第25週) (国立感染症研究所HPより)

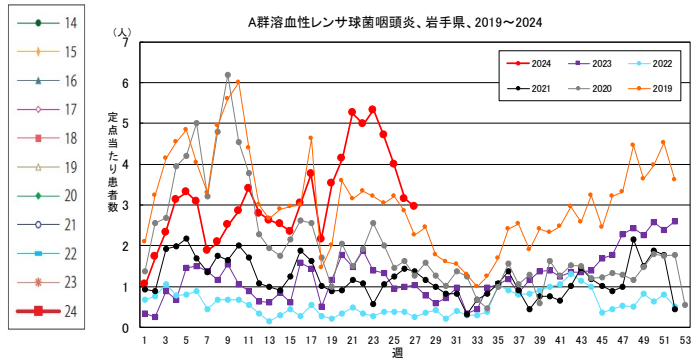


図2 岩手県のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況 (2019年～2024年第27週)

今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と劇症型
溶血性レンサ球菌感染症 (続き)

溶血性レンサ球菌は保菌者の飛沫や接触により感染します。特に家庭内では感染が広がりやすいので気を付けましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防方法等は以下のとおりです。

- (1) 手洗い、うがいの励行。手指をアルコール消毒する。
- (2) 咳エチケット。
- (3) 溶血性レンサ球菌はアルコールや塩素系消毒剤等の消毒薬で死滅するので、ドアノブやおもちゃ等を清掃消毒する。
- (4) タオルの共用は行わない。
- (5) 傷口の清潔保持。症状がある場合には、早めに受診する。

【参考】

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pneumococcal-m/group-a-streptococcus-idwrc/12361-idwrc-2343.html>

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00003.html

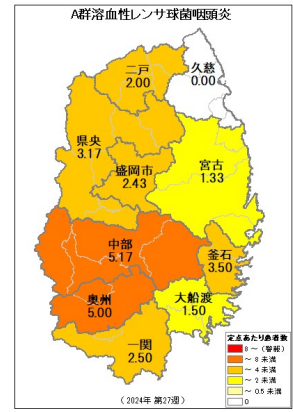


図3 第27週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

RSウイルス感染症

RSウイルス感染症はRSウイルス(RSV)を病原体とする、乳幼児に多く認められる急性呼吸器感染症です。潜伏期は4～6日程度です。主な感染経路は、患者の咳やくしゃみ等による飛沫感染と、ウイルスが付着した手指や物品等を介した接触感染があります。2歳までにはほぼ100%の人がRSVの初感染を受けますが、再感染によるRSウイルス感染症も認められています。初感染の場合、発熱、鼻汁等の上気道症状が出現し、うち約20～30%で気管支炎や肺炎等の下気道症状が出現します。乳幼児における肺炎の約50%、細気管支炎の約50～90%がRSVによると言われています。また、早産の新生児や早産で出生後6カ月以内の乳児、月齢24カ月以下で免疫不全を伴う、あるいは血流異常を伴う先天性心疾患や肺の基礎疾患を有する乳幼児等では重症化しやすい傾向があります。さらに、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者におけるRSウイルス感染症では、肺炎の合併が認められることもあります。

全国の発生状況は図1のとおりです。本県の発生状況は、2023年では第26週にピークが認められており、2024年も第23週から増加しています(図2)。例年、秋から冬に発生が多い傾向がありましたが、近年では夏期に多くなっています。今週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。

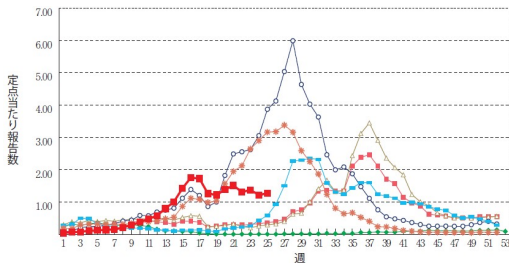


図1 全国のRSウイルス感染症の発生状況 (2018年～2024年第25週) (国立感染症研究所HPより)

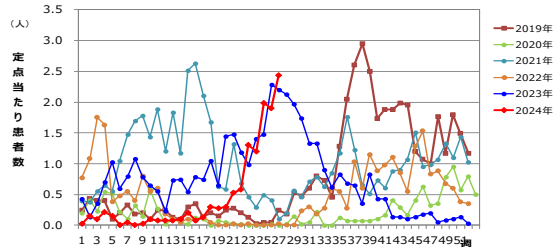


図2 岩手県のRSウイルス感染症の発生状況 (2019年～2024年第27週)

RSウイルス感染症においては、家族内にハイリスク者(乳幼児や慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者)が存在する場合、罹患により重症となる可能性があるため、飛沫感染や接触感染に対する適切な感染予防策を講じることが重要です。飛沫感染対策としてマスク着用(乳幼児以外)や咳エチケット、接触感染対策としては子どもが日常的に触れるおもちゃ等の消毒や手洗い等の手指衛生が重要です。

【参考】

IDWR 2023年第28号<注目すべき感染症> ヘルパンギーナ・RSウイルス感染症 (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rs-virus-m/rs-virus-idwrc/12194-idwrc-2328.html>

感染症発生動向調査からみる2018年～2021年の我が国のRSウイルス感染症の状況 (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rs-virus-m/rs-virus-idwrs/11487-rsv-20220916.html>

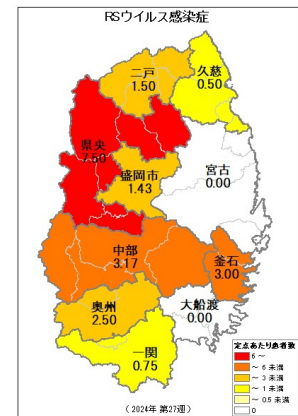


図3 第27週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は、発熱、咽頭炎、眼症状を主訴とする小児の急性ウイルス性感染症です。原因はアデノウイルスで、季節特異性が少なく年間を通じて検出されます。以前は夏期に流行が見られましたが、2003年から冬期にも流行のピークが見られるようになりました（図1及び2）。岩手県内の発生状況は図2及び3のとおりです。2023年に一部の地域で流行が見られ、第50週及び第51週にピーク（定点当たり患者数2.83人）が認められました。県内各地区の発生状況は図3のとおり、今週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図4のとおりです。

咽頭結膜熱の流行を起こすのは、主にアデノウイルス3型です。ほかに4型、7型、2型、11型などがあります。

感染経路は飛沫感染や手指を介しての接触感染であり、結膜あるいは上気道からの感染が考えられます。プールを介した場合には、汚染した水から結膜への感染が考えられます。

潜伏期は5～7日と考えられており、発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、咽頭痛、結膜炎、眼痛、流涙、眼脂などの症状が見られます。通常、眼に障害などは残りませんが、生後14日以内の新生児に感染した場合は、全身性感染を起こしやすく、重症化する場合がありますことが報告されています。

予防方法としては、患者との密接な接触やタオルの共用を避けること、流水と石けんによる手洗いやうがいがあります。ドアノブやおもちゃなどを塩素系消毒剤で消毒することも効果的です。

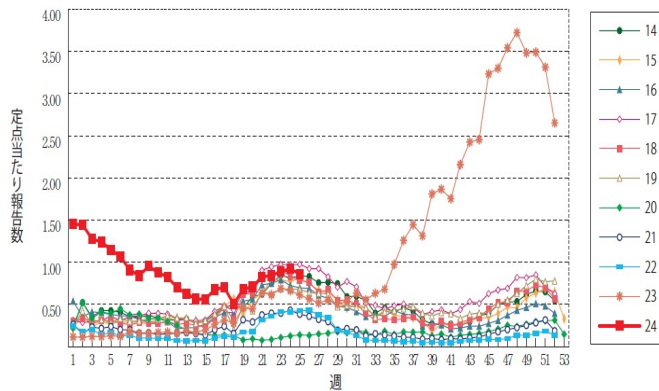


図1 全国の咽頭結膜熱の発生状況（2014年～2024年第25週）
（国立感染症研究所HPより）

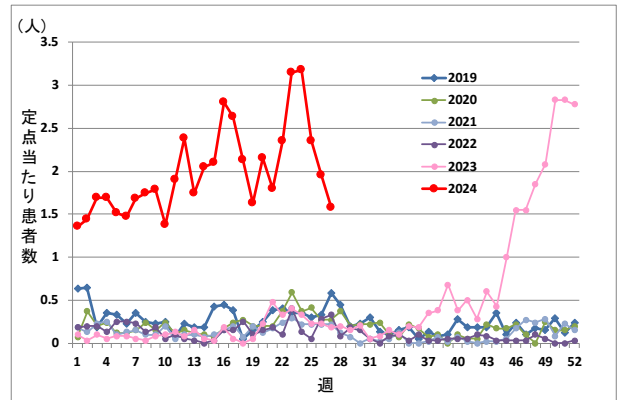


図2 岩手県の咽頭結膜熱の発生状況
（2019年～2024年第27週）

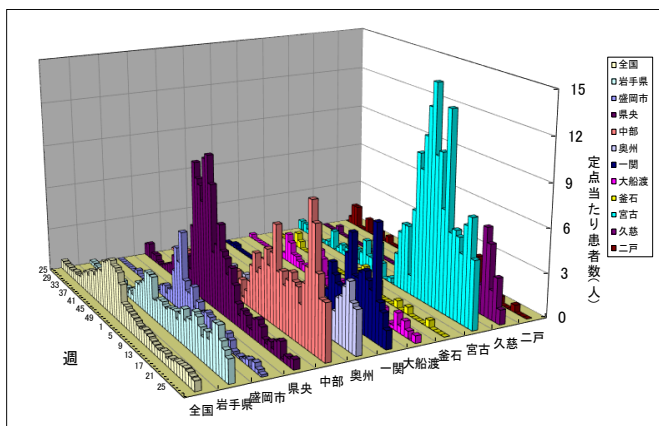


図3 全国、岩手県、盛岡市と各地区の咽頭結膜熱の発生状況
（2023年第25週～2024年第27週）

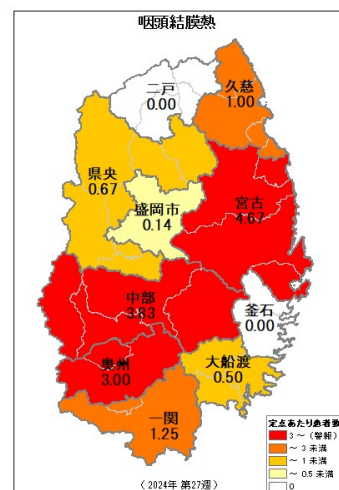


図4 第27週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

【参考】

- 咽頭結膜熱とは（国立感染症研究所）
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/323-pcf-info.html>
- IDWR注目すべき感染症（国立感染症研究所）
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/adeno-pfc-m/adeno-pfc-idwrc.html>

今注目の感染症

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属の新型コロナウイルスによる急性呼吸器症候群です。

2023年第19週（5月8日～14日）から全数把握対象疾患ではなく、五類感染症の定点把握対象疾患となり、県内の発生動向は定点医療機関からの患者数の報告に基づいて公表しています。

2023年第19週以降の国内と県内の定点当たり患者数は図1のとおり、2023年第19週から第52週までの県内年齢層別の定点医療機関患者数割合は図2のとおり、2024年第27週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。予防には、咳エチケットや手洗いなど普段からの感染症予防対策に努めていただくとともに、「3つの密」（換気の悪い密閉空間、人が多数集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面）を避けるようにしましょう。

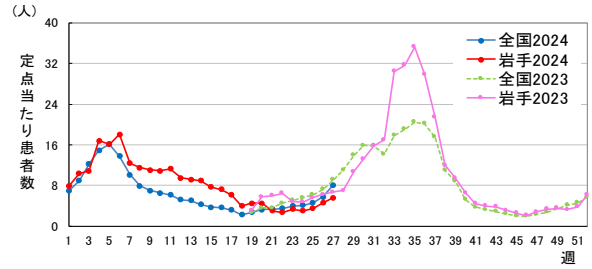


図1 全国及び岩手県の状況(2023年第19週～)

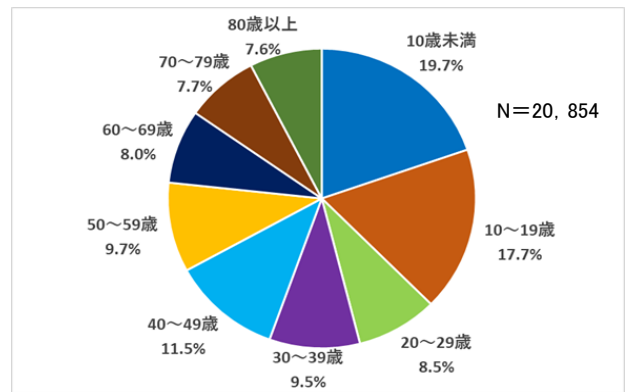


図2 年齢層別定点医療機関患者数割合(2023年第19週～52週)



<<岩手県の電話相談窓口>>

県民医療相談センター 受付時間 平日9時から16時
 TEL：019-629-9620 FAX：019-626-0837
 いわて発熱等相談センター 受付時間 平日夜間16時から翌朝9時
 及び休日、年末年始
 TEL：0570-059-333 FAX：050-3816-3649

「かかりつけ医」がない場合、ご相談ください。

- ① 発熱等の症状がある場合の健康相談や受診先の相談。
- ② ワクチンの効果や体への影響、接種後の副反応についての相談。

岩手県の受診・相談（新型コロナウイルス感染症）のホームページはこちら

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/covid19/1052939.html>

また、新型コロナウイルス感染症の最新情報については、厚生労働省及び国立感染症研究所のホームページで随時更新されています。ご確認をお願いします。

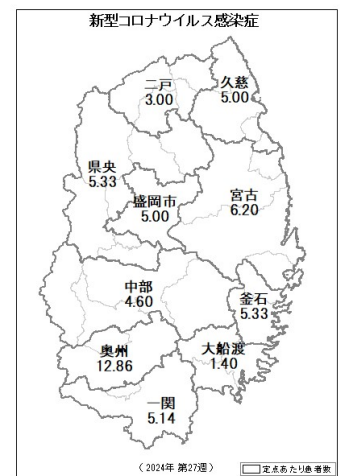


図3 第27週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

◆参考

新型コロナウイルス感染症について－厚生労働省－

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

新型コロナウイルス（2019-nCoV）関連情報について

－国立感染症研究所－

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/9324-2019-ncov.html>

岩手県の新型コロナウイルス感染症関連情報

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/covid19/index.html>

集団感染情報

○新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生について(令和6年7月10日発表分)

- ・岩手県 1件
- ・盛岡市 0件



病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

医療機関からの情報

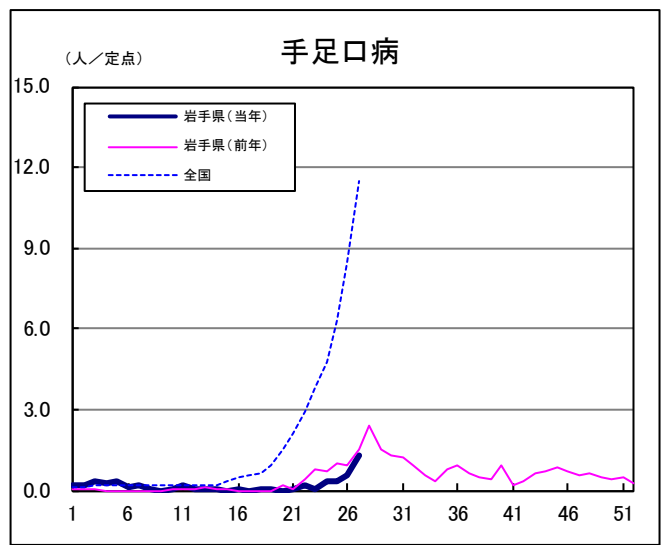
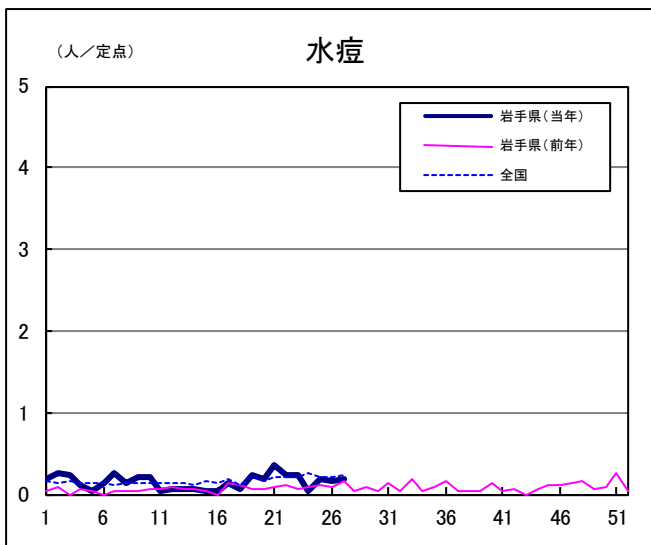
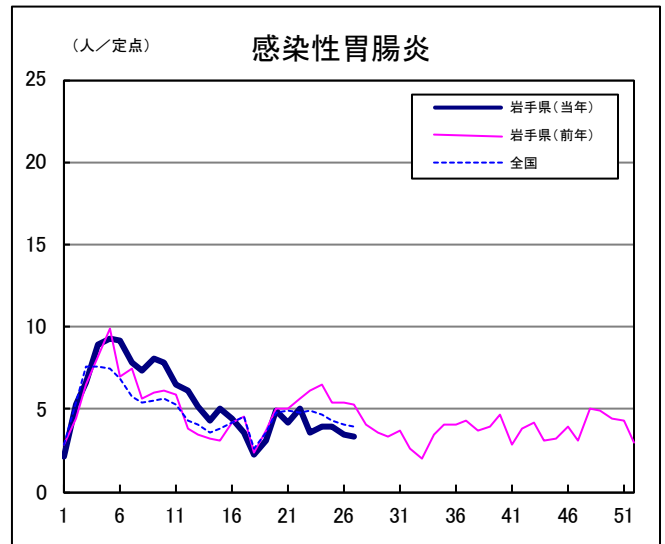
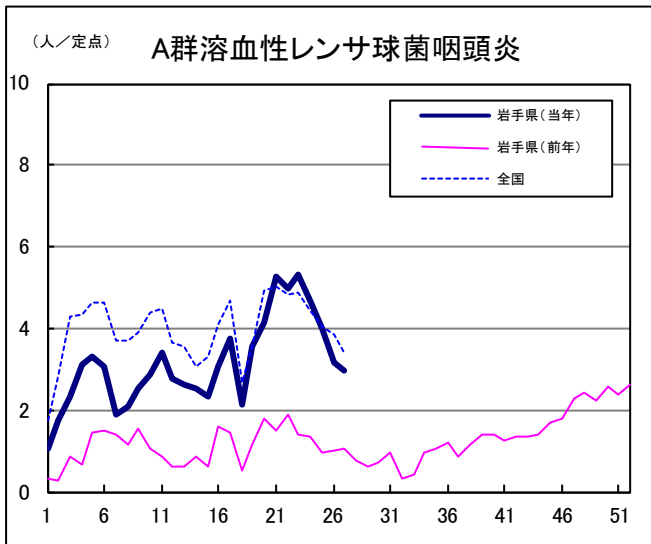
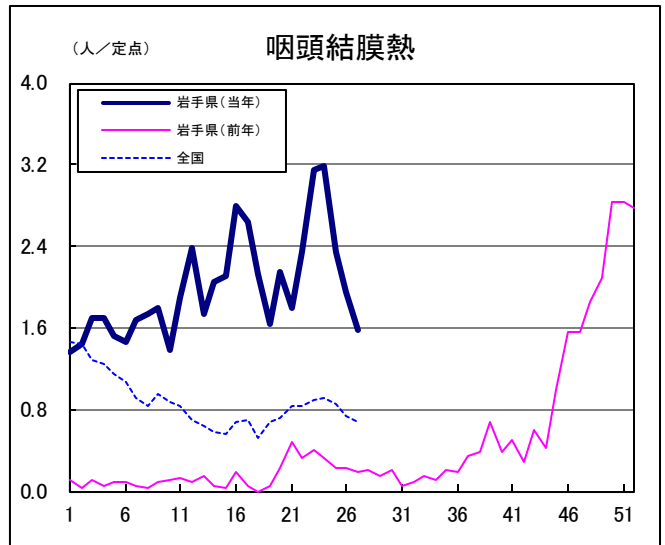
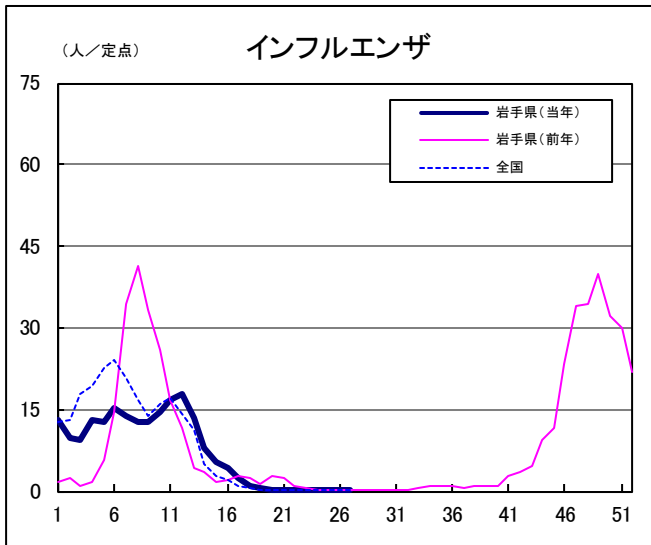
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

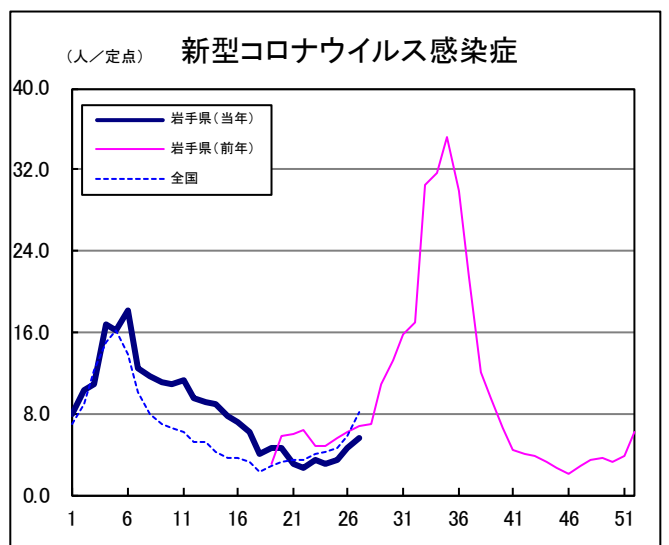
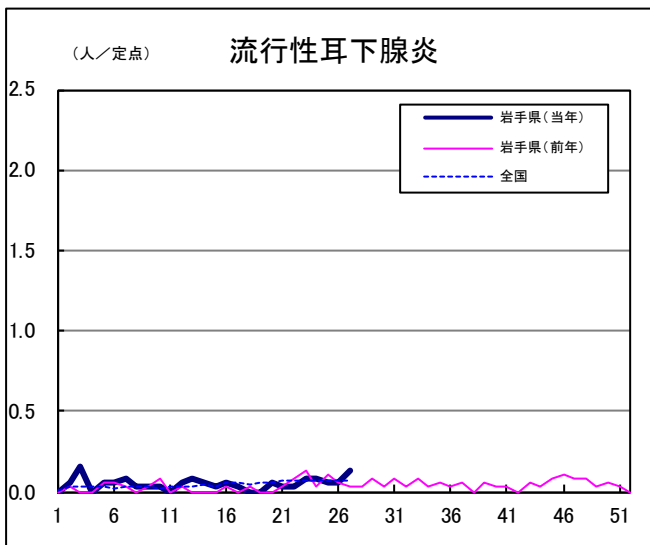
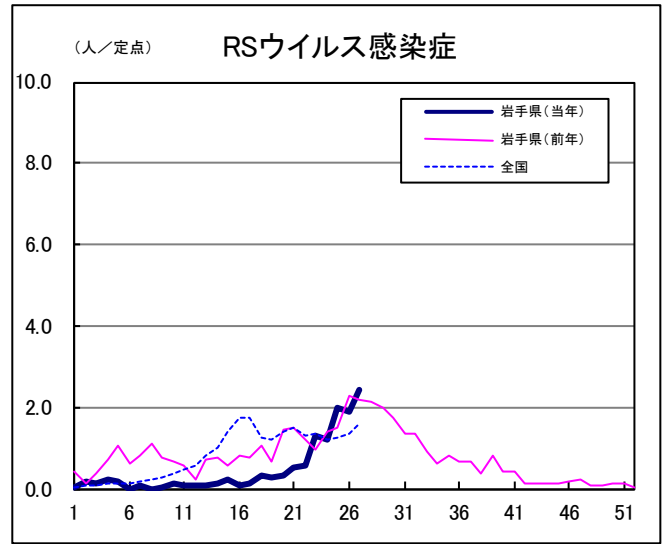
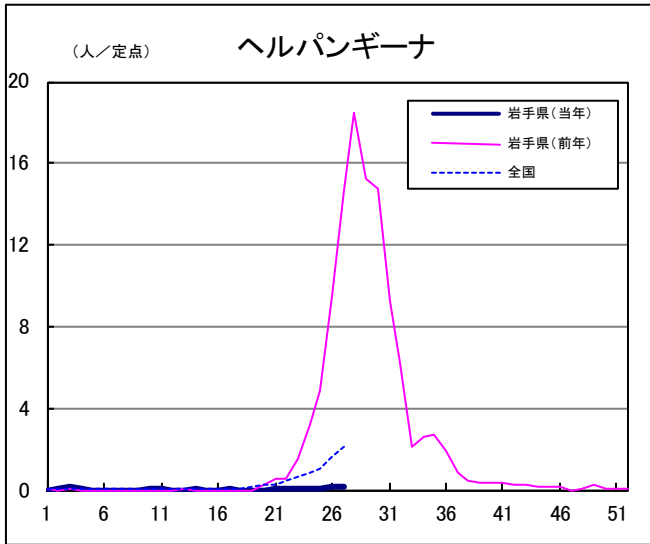
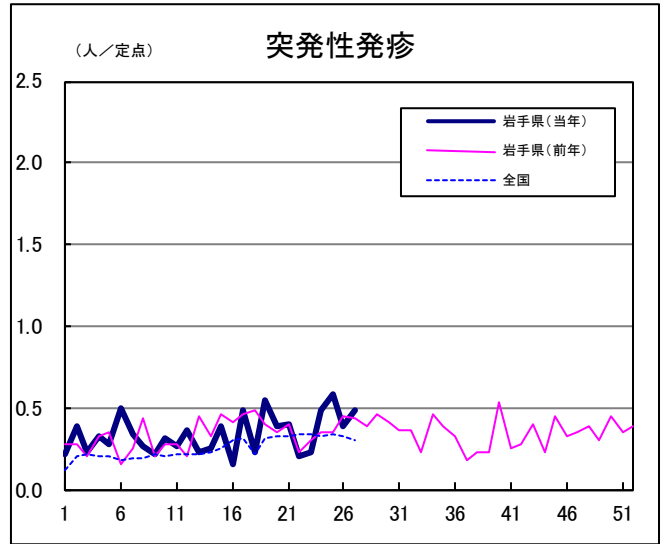
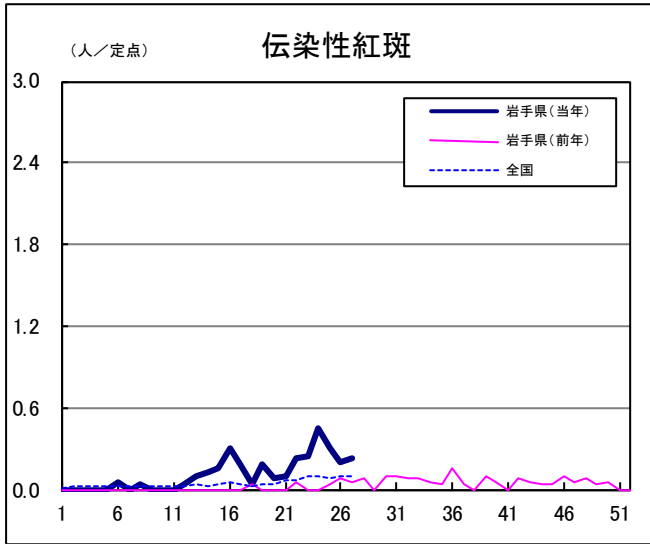
Q & A

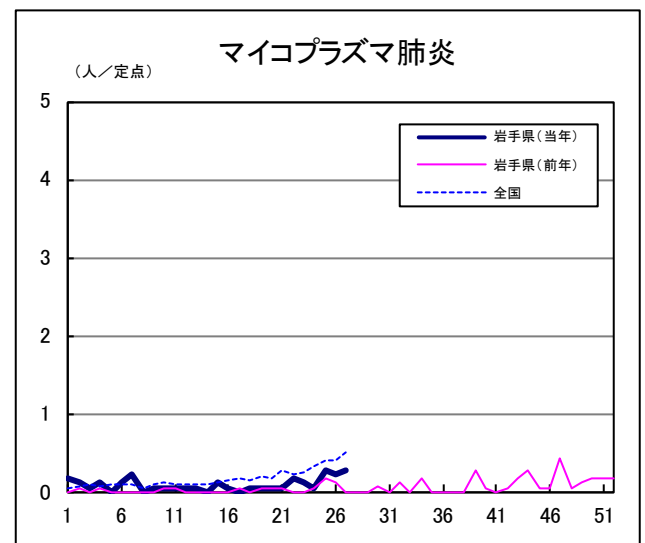
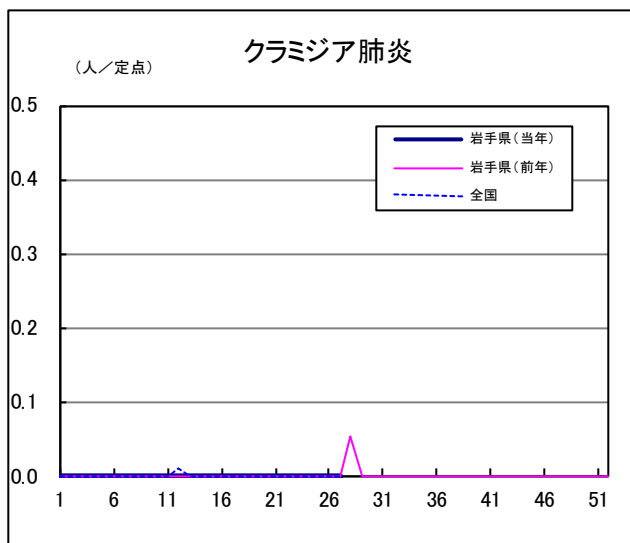
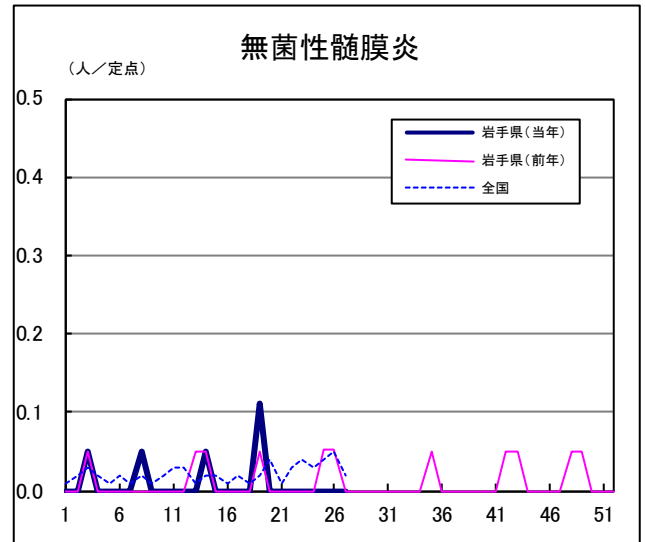
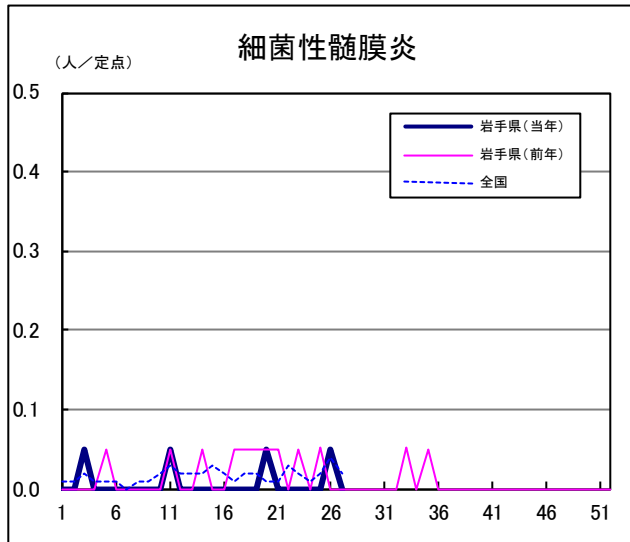
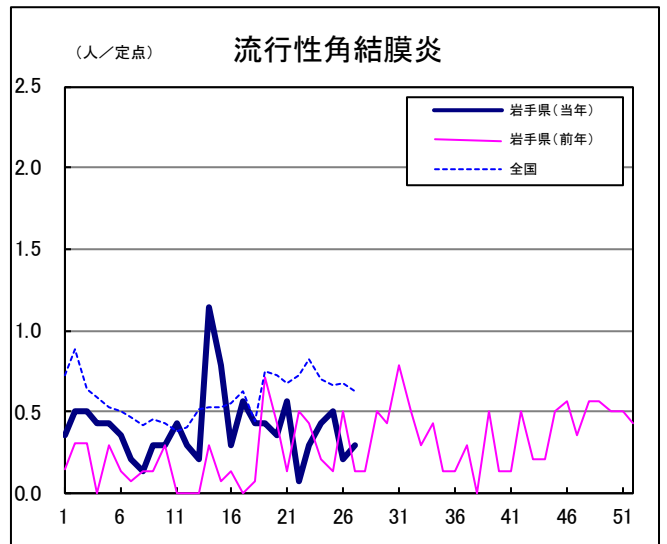
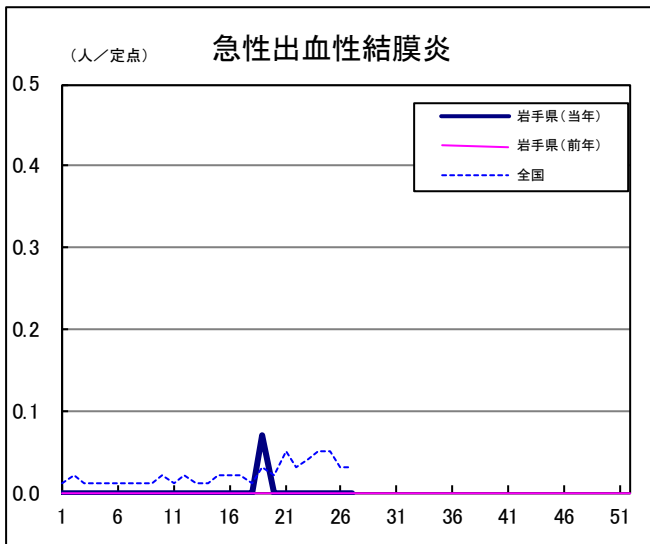
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフルエンザ /COVID-19	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県	63	40	14	19
盛岡市	11	7	3	4
県央	9	6	2	1
中部	10	6	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	5	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和6年第27週 令和6年7月12日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査協議会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>